



菅原 道雄 議員

# 7人が登壇

## ■交流人口の拡大に向けて

## ■新町地区に排水ポンプ設置の考えは

町長

□年間50万人をめざす

□27年度以降の配備を要望

**議員** より良い梅公園、梅まつりにしていくため、梅の木の手入れや公園管理の徹底が必要である。

**町長** 維持作業と各種対策を講じながら、公園環境と梅等の植栽物の管理を行っている。

昨年の冬から春にかけて「うそ」対策として反射材の取り付けや忌避剤散布などの対策を講じた。

**町長** 遊具周辺に新たに桜やアジサイ、園路坂沿いサルズベリやツツジを植栽しており、今後も春から秋まで視覚的に季節の移ろいが堪能できるよう、植栽物を含め公園を検討する。

**議員** 町民が活力を実感できる交流人口の拡大策を。

**町長** 平成25年度の取りまとめによると、産直施設や梅里苑の利用者増加などで34万1千人を数え、目標の30万人を達成した。今後町の特色を生かしたイベントの充実や体験滞在型のプログラム展開などを、さらに拡大し、地域をますます元気にするため、目標を年間50万人に設定し、取り組む。

**議員** 町のPR活動・情報発信を積極的に行うべき。

**町長** 現在サーバーの更新と併せてホームページのリニューアルを進めている。より簡易に素早く更新できるS

NSを活用・連携させ、よりタイムリーに動画による情報提供を考えている。

**議員** 新町地区の冠水被害を防ぐために排水ポンプ設置の考えは。

**町長** 最上広域市町村圏事務組合において、今年度より計画的に内水排水ポンプ車を購入し、発生頻度の高い市町村から順次配備することになり、当町には次年度以降配備するよう要望している。



国交省の秋山沢川排水樋門

### 他の質問

●消防団副団長を二人制にしては

## ■要支援者をしめ出す国の介護保険制度改定にたいして町の対応は

町長

□法の趣旨に従いつつ、サービス低下につながらないように、論議しながら計画を策定・実施していく

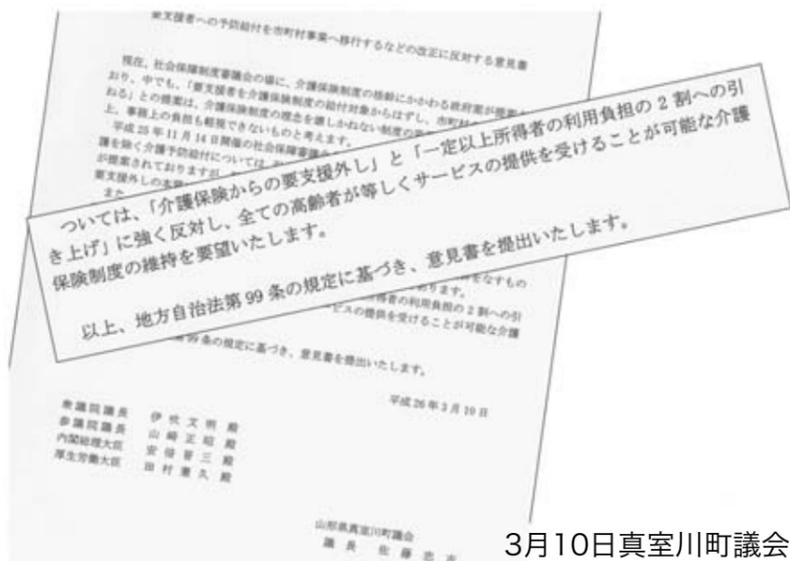


平野 勝澄 議員

**議員** 国は介護保険制度改定を予定しているが、それが実施されると認知症の方などをはじめ、要支援1、2に該当する方々が保険給付から切り離され、市町村の行う事業へと追いついてしまう。町に移管される要支援者への介護サービス事業がこれまでの保険給付の水準を下回ることがあつてはならない。また、一定水準以上の収入のある方の利用料を2割へ増やす、特養ホームへの入所基準を原則要介護3以上に限定するなど、負担増と給付削減が予定されている。要支援等軽度利用者へのサービスの現状と、今後の計画は。第6期介護保険事業計画の策定、具体化についての町長の考えは。

**町長** 市町村の行う地域支援事業に移行される改正に関して、現在の要支援者へのサービスの給付の状況は、サービス31名、訪問介護15名で132万円/月（平成26年4月実績）で、これらが介護保険からの給付である。介護予防給付については柔軟な取り組みにより効果的かつ効率的にサービスの提供をできるように地域支援事業の形式に見直すことが検討され、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人等を効果的に活用、などの介護予防事業の方向性が示されている。

現在行われている介護予防事業を低下させることは好ましくないと考えている。事業費比率の変化を注視しつつ、現行のサービスが維持できるよう、第6期計画に反映していく。



3月10日真室川町議会提出の意見書

介護保険の改定には、当町の議会も含め懸念の声があつた。

いづがききたい

一般質問